

浪江国際研究学園都市構想 タウンセンター形成の取組について

2024.10.20

浪江町市街地整備課

- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要
- 2 タウンセンターにおける都市整備
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区
 - (3) 川添産業団地（仮称）
- 3 多様な主体が共生するまちづくり
 - (1) これまでの取り組み
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要**
- 2 タウンセンターにおける都市整備
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区
 - (3) 川添産業団地（仮称）
- 3 多様な主体が共生するまちづくり
 - (1) これまでの取り組み
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

構想の位置づけ

町の最上位計画である浪江町復興計画【第三次】やその関連計画を踏まえながら、F-REIの本町への立地に伴う状況変化に対応するため、「浪江国際研究学園都市構想」を策定

なお、浪江町復興計画【第三次】の改定時に、施策などの整合を図ります。

- 計画期間：令和6年度～令和15年度(10年間)
- 対象範囲：浪江国際研究学園都市の範囲は浪江町全域とします



詳しくは浪江町HPの浪江国際研究学園都市構想のページを
ご参照ください

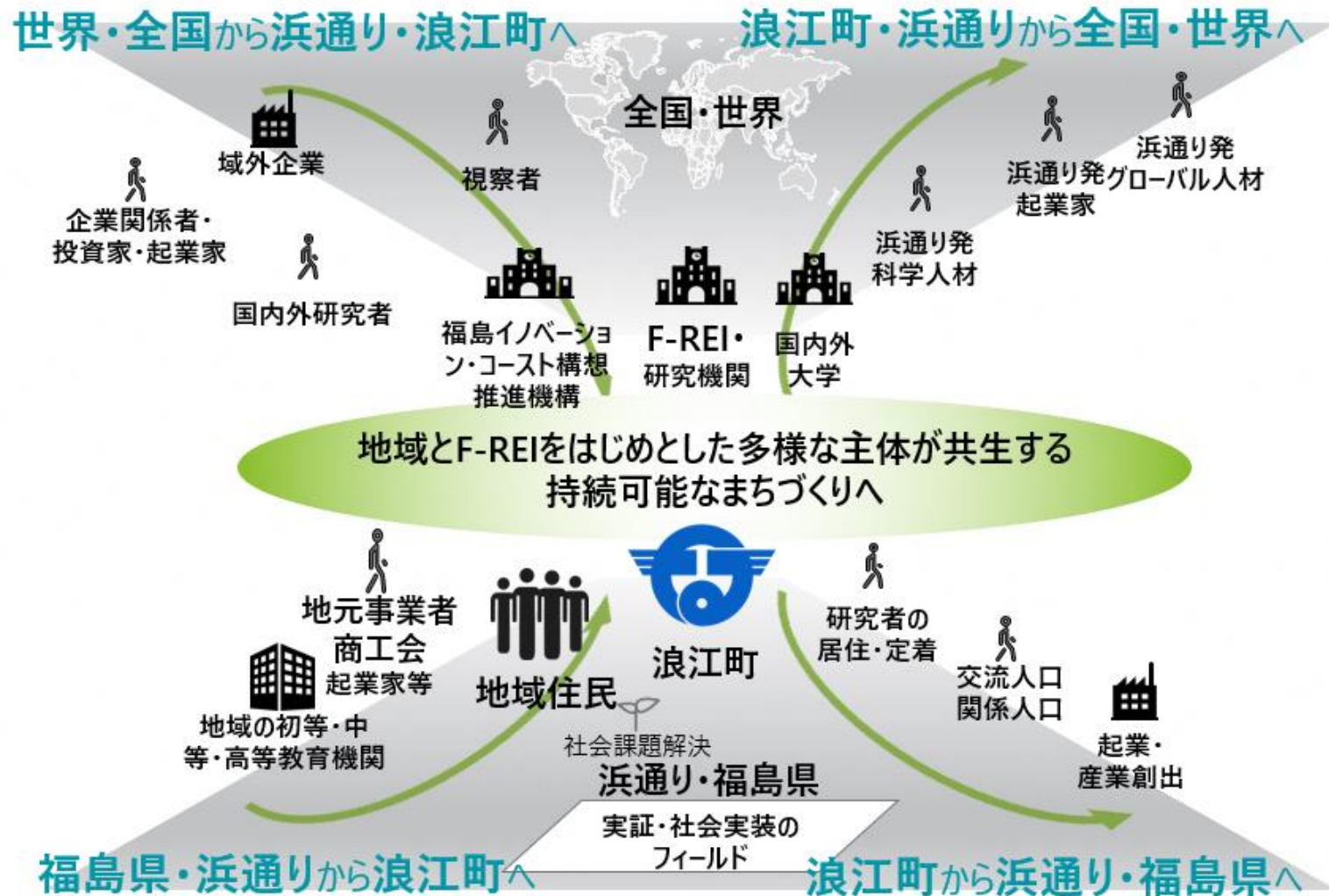
<https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/34/35478.html>

1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

本構想のビジョン

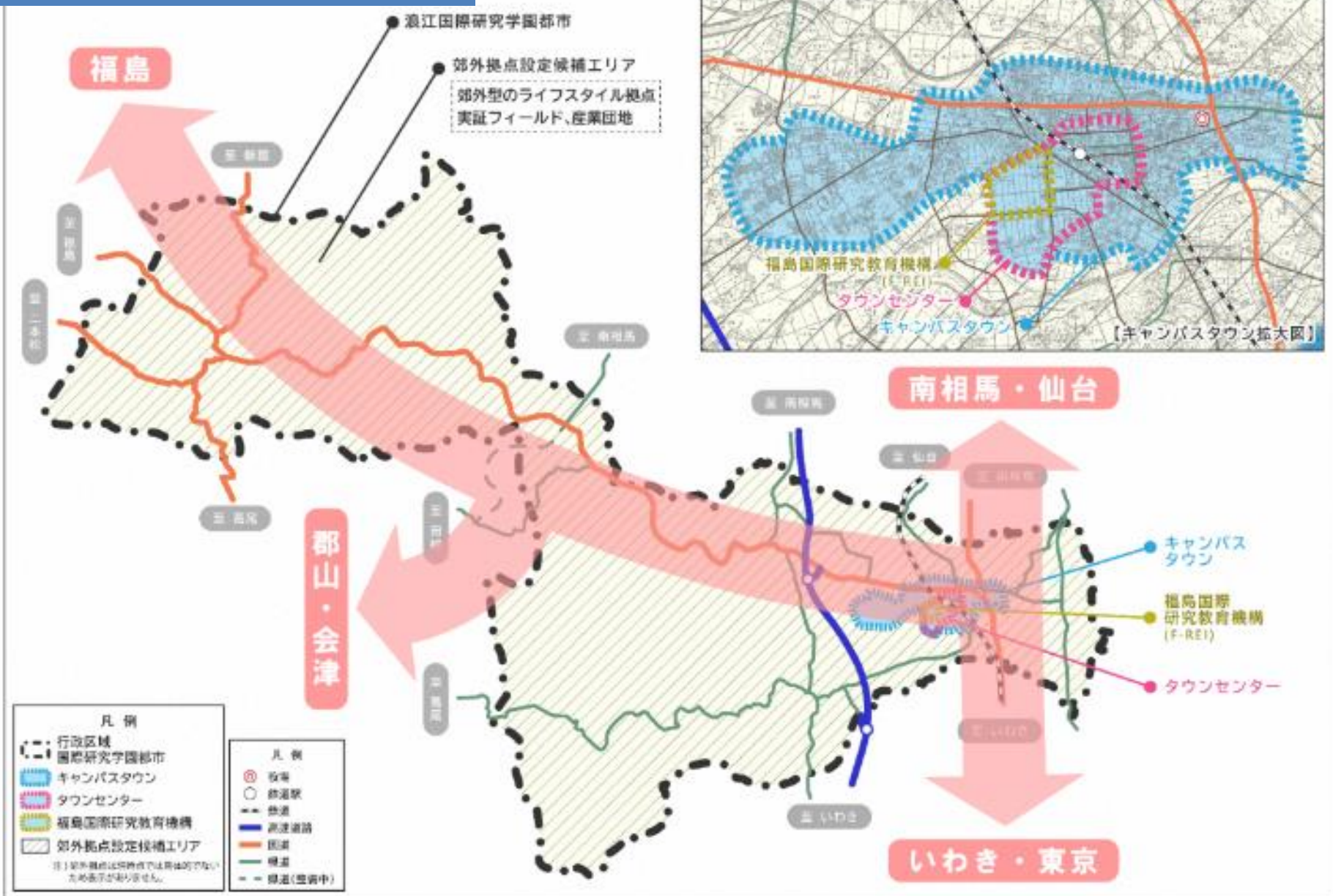
地域とF-REIをはじめとした多様な主体(※)が共生する持続可能な まちづくりの実現

※地域の住民や事業者、復興に関わる団体、様々な研究機関など、浪江町に関わる個人、法人、団体を広く包含



1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

浪江国際研究学園都市形成イメージ図



キャンパスタウン拡大図



1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

区分	内容
キャンパスタウン	範囲：おおむね浪江町都市計画の用途地域 ➤ 多様な教育機関や人材育成施設の立地を誘導し、地域とF-REIをはじめとした多様な主体の共生の場となる学園都市を形成 ➤ 主に民間による土地活用を誘導
	範囲：中心市街地先導整備エリアとF-REI敷地を含むその周辺 ➤ 主に公民連携により都市的サービス（芸術、文化、スポーツ、飲食、娯楽など）や生活利便施設等を誘導 ➤ 産学官民連携のための施設や産業化に必要な施設などを適切に配置 ➤ 浪江駅周辺とF-REI本施設とが相乗効果を生みだすよう、F-REI本施設が周辺地域に溶け込み、一体的となった街並みと、居心地よく歩きたくなるまちなかを形成し、まちを訪れることが目的となり、何度も訪れたくなるような、魅力的なまちづくりを推進 ➤ 浪江駅近接の立地条件を活かして、公共による先導的整備と秩序ある土地活用誘導を推進 ➤ 浪江駅周辺においては、道路、宅地や広場などを一体的に利活用できる仕組みを構築し、民間事業者などによるイベントや様々な活動を誘導し、にぎわいを創出 等
郊外拠点	範囲：現時点では、箇所数、位置、規模などは未定 ➤ 地方ならではの自然を感じる生活環境を活かした郊外型のライフスタイルの場 ➤ 多様な主体の研究成果の産業化などに必要な実証フィールドや産業団地となりうる区域

1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

F-REIの立地に伴う浪江町の課題と目標



課題1 «コミュニティ形成»

- 町民や、F-REIをはじめとした多様な主体の活動に伴い居住・来訪する国内外のすべての人にとって、共に暮らしやすい環境整備が求められる。
- 研究者、事業者、起業者、地域人材の連携とともに、地域と多様な主体の連携が必要。
- 地域のあらゆる主体が安心して活躍できる環境づくりを進めていくことが必要。



【まちづくり】

目標1 誰もが過ごしやすいまちづくり

方向性

- ▶ 地域と多様な主体の共生を促進するコミュニティ形成
- ▶ 地域と多様な主体の共生を促進する都市整備

課題2 «研究成果の産業化、社会実装»

- 研究者・関係者を浜通り地域に呼び込み、新産業創出や新事業創出を促進するため、ハード面では、時機を逸することがないように、実証フィールドや産業化などに必要な施設などを先行して整備し、ソフト面では、産業化・社会実装を当地域で行う仕組みづくりを行い、多様な主体による研究開発成果の産業化や社会実装化による波及効果を受け止めることが重要。
- 帰還困難区域をはじめとする地域における、生活・自然環境などの再生や、農林水産業再開などの地域・社会課題解決に関して、多様な主体と連携し、先端的研究の成果を活用していくことが求められる。



【産業づくり】

目標2 浜通り・福島県の広域連携による産業振興・雇用創出

方向性

- ▶ 実験・実証しやすい環境づくり
- ▶ 創造的な産業空間づくり
- ▶ 浜通り・福島県全体での価値向上の好循環・連鎖の形成

1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

F-REIの立地に伴う浪江町の課題と目標



課題3 «人材育成»

- F-REIをはじめとした多様な主体が地域に根付くためには、多様な主体を支える人材を地域において育成し、復興をリードする人材を継続的に輩出できるようにすることが重要。

課題4 «浪江らしさ、浪江の良さ»

- 課題を克服する努力と同様に、これまで培った浪江の良さ、長所を認識し、さらに伸ばしていくことが重要。
- 東日本大震災と原発事故による避難生活を経て、町の伝統文化の承継が難しくなっている。
- 町民が研究人材などと共存して生きがいを感じながら生活していく新たなライフスタイルの実現と、新たな地域アイデンティティの確立が重要。



【つながり】

目標3 国際的な研究環境で活躍し、復興をリードする人材の育成・確保

目標4 伝統文化の承継と新たな浪江文化の創出

方向性

- ▶ 人材や担い手の育成・確保
- ▶ 国際的な学術・教育空間づくり
- ▶ 伝統文化の承継と新たな浪江文化の創出

課題5 «広域的な復興推進»

- F-REIの取組は浜通り地域・福島県（中通り、会津地域）全体の広域的な復興に寄与するものであることに鑑み、浜通り地域・福島県（中通り、会津地域）全体での広域的な連携により、個々の取組が相乗効果を発揮することが重要。
- F-REIをはじめとした多様な主体の連携の効果を高めるよう、浪江町はF-REI立地町として広域的な連携に積極的に貢献することが重要。
- 連携の効果を高めるためには、有機的で密接な交流を行うことが必要であり、研究機関や事業者等の集積の密度を浜通り地域全体で高める必要がある。
- そのため、浜通り地域全体で魅力ある立地環境を整備し、その魅力やインセンティブ等の情報発信等を通じて、研究機関等を引き続き誘致していくことが必要。



【広域的な取り組み全般】

1. 浪江国際研究学園都市構想の概要

未来の浪江町のイメージ 浪江町はこれからどのように変わるでしょうか？

まち・暮らし

- ▶新しく浪江町に住む方々や外国から移り住む方々と共に生活する町になります。町内では、多くの若い人たちがこの地域をどうするかを活発に話し合い、様々な事にチャレンジしています。
- ▶また、研究成果を生活に取り入れて暮らしやすさが向上することや、研究者や学生など多様な方々と住民間の交流も盛んになり、川、山、海の自然に癒され、**一人一人が生き生きと生活**しています。
- ▶さらに、市街地を中心に、居住・滞在する方々などの増加により商業施設や浪江の物産を使う飲食店などが立地し、**毎日がにぎわうまち**になっています。



産業・仕事

- ▶町の中で実証などが当たり前に行われ、**チャレンジできるまち**になり、様々な研究者や大学、企業などが町の中で活動しています。
- ▶これらの研究成果から多くの起業・産業化がなされ、町内企業と交流・連携し、この相乗効果で、さらに**新しいビジネスが生まれ活気があるまち**になっています。
- ▶新しい業態へのチャレンジ、既存業態の深化と発展などにより、多くの雇用が生まれ、都会に行かなくても生活していけるまちになります。



つながり

- ▶世界的な研究者や先端的な研究などと住民が触れる機会が生まれ、子どもたちへの教育施設も充実し、**浪江町から世界に羽ばたく人材**が生まれています。
- ▶様々、浪江町の環境が変わる中で、なくしてはいけない**浪江町の歴史と文化を、新しく浪江町に住む方々なども担い手となり承継**しています。
- ▶また、新たな文化として、常に新しいことに挑戦することが当たり前になり、**新しい浪江町の誇り**が生まれています。



- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要
- 2 **タウンセンターにおける都市整備**
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区
 - (3) 川添産業団地（仮称）
- 3 多様な主体が共生するまちづくり
 - (1) これまでの取り組み
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

2 タウンセンターにおける都市整備

< タウンセンターの位置づけ >

- 令和6年3月に策定した「浪江国際研究学園都市構想」において、浪江駅周辺整備計画（R3.3）の先導整備エリアと、F-REI都市施設の区域を中心としたその周辺を「タウンセンター」として位置づけ。
- タウンセンターは、芸術、文化、娯楽などの都市的サービス施設や、多様な主体の活動に資する生活サービス施設等を整備することとしている。
- また、浪江駅近接の立地条件を活かして、公共による先導的整備と秩序ある土地活用誘導を推進することとしている。

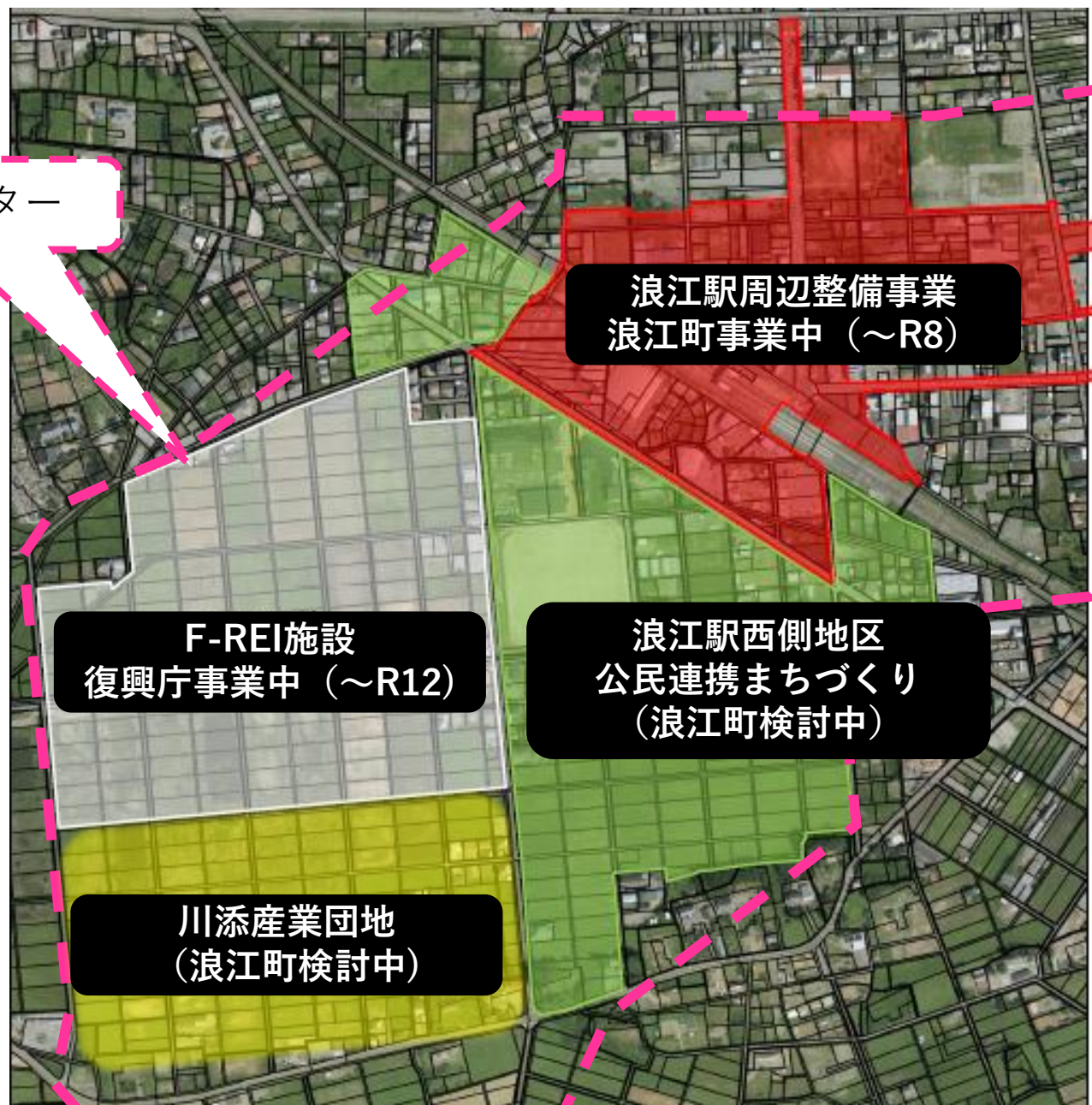
【抜粋 再掲】

タウンセンター	範囲：中心市街地先導整備エリアとF-REI敷地を含むその周辺 ➤ 主に公民連携により都市的サービス（芸術、文化、スポーツ、飲食、娯楽など）や生活利便施設等を誘導 ➤ 産学官民連携のための施設や産業化に必要な施設などを適切に配置 ➤ 浪江駅周辺とF-REI本施設とが相乗効果を生みだすよう、F-REI本施設が周辺地域に溶け込み、一体的となった街並みと、居心地よく歩きたくなるまちなかを形成し、まちを訪れることが目的となり、何度も訪れたくなるような、魅力的な まちづくりを推進 ➤ 浪江駅近接の立地条件を活かして、公共による先導的整備と秩序ある土地活用誘導を推進 ➤ 浪江駅周辺においては、道路、宅地や広場などを一体的に利活用できる仕組みを構築し、民間事業者などによるイベントや様々な活動を誘導し、にぎわいを創出 等
---------	--

2 タウンセンターにおける都市整備

(1) 全体概要

タウンセンター



- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要
- 2 タウンセンターにおける都市整備
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区**
 - (3) 川添産業団地（仮称）
- 3 多様な主体が共生するまちづくり
 - (1) これまでの取り組み
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

2 タウンセンターにおける都市整備

(2) 浪江駅西側地区

- 浪江駅周辺整備事業とF-REI施設とが一体となり相乗効果を生み出すためには、F-REIと浪江駅西口の間に介在するエリア（以下「浪江駅西側地区」という。）も一体的にまちづくりを進めていく必要がある。
- このため、浪江駅西側地区においては、町が用地取得と基盤整備を行い、民間が施設の建築運営を行う公民連携方式でのまちづくりを検討中。

<公民連携まちづくり事業概要>

1) 面積 : 約10ha～14ha（地権者意向等を踏まえて精査）

2) 事業手法等の想定

- 一団地の復興再生拠点市街地形成施設事業
※ 財源、事業手法未定であり、国等と調整中

3) 想定スケジュール

R7年度 都市計画決定

R8年度 用地取得着手

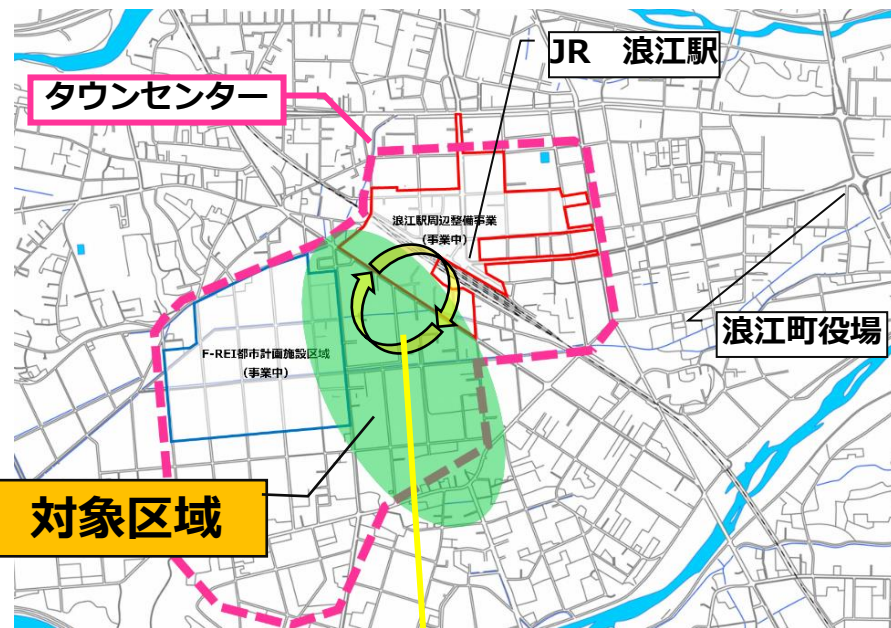
※ 進捗状況に応じて見直しを行います。

※ 財源も含めて検討中であり、本事業の実施は確定していません。

2 タウンセンターにおける都市整備

< 浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案募集 >

- ・「浪江駅西側地区」における公民連携まちづくり事業の具現化に向けて、当町と一緒に共創交流拠点形成と地域課題・社会課題解決に取り組んでいただける事業者等からアイデア提案を募集。
- ・公民連携まちづくりの主体として参画を期待する「地域経営主体」と、若い世代の育成実践の場としての「アイデアコンペ」の2つの区分で提案を募集。
- ・枠にとらわれない自由なアイデアと熱意を持った多くの事業者等からのご提案を期待。
- ・11/5にアイデア提案発表を含む「浪江町公民連携セミナー（第2回）」を開催。



対象区域	浪江駅西側地区公民連携まちづくりエリア	
面積	約10～14ha（今後具体的なエリアを設定）	
募集期間	2024年7月31日～10月11日	
実施体制	・ 主催：浪江町 ・ 協力：公益社団法人福島相双復興推進機構	
募集区分	地域経営主体	アイデアコンペ
対象者	・ 事業者 ・ 団体 ・ 個人	・ 学生 ・ フリーの社会人 ・ 組織に属する社会人

2 タウンセンターにおける都市整備

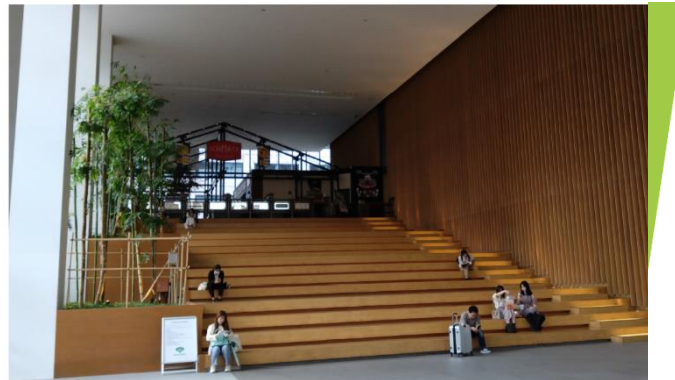
<応募数>

- ・ 地域経営主体 10件
- ・ アイデアコンペ 4件

地域経営主体	アイデアコンペ
・ 提案を分類すると、教育に関する提案が3件、食や農業に関する提案が3件、コミュニティ形成に関する提案が2件、産業振興に関する提案が2件であった。（1件の提案でも複数テーマに計上している提案あり） ・ 11/5公民連携セミナーにおいて、提案発表を実施し、町民や事業者の浪江駅西側地区における公民連携事業の可能性やイメージを共有する。	・ 食に関する提案が2件の他、防災、多文化共生、文化芸術に関する提案があった。 ・ 10/22に審査会を実施し、特賞、優秀賞を選定。 ・ 11/5公民連携セミナー（第2回）において上記提案について、表彰と提案発表を実施予定。

<提案イメージ（アイデア提案からの抜粋）>

うごくハコ～みんなが自分の好きな「なみえ」を実現する可動式建築～
なみえ P&ADに取られた多数のハコは、個人も企業も自由に使うことができます。
「うごくハコ」の新しい人や場所が流動的に変化していくことで、
各所でにぎわいが発生し、「うごくハコ」起点で人々の交わりをつくります。



古い建物を移築して 横丁を作る。

（例） ※あくまでイメージであり、許可を得ているわけではありません。

- 大堀地区などにある古民家。
- 現在の浪江駅舎の一部
- 旧サンプラザ建物の一部
- 納屋や工場跡など昭和レトロな建物

⇒ **サステナブル**な街づくりを実現

- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要
- 2 タウンセンターにおける都市整備
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区
 - (3) 川添産業団地（仮称）**
- 3 多様な主体が共生するまちづくり
 - (1) これまでの取り組み
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

2 タウンセンターにおける都市整備

(3) 川添産業団地（仮称）

I 整備の概要

1 整備の目的

浪江町では、浪江町復興計画【第三次】に基づき、魅力ある仕事づくりを推進し、町民の帰還や移住・定住を推進することを目的に、産業団地の整備及び企業誘致活動を推進しており、これまで多くの企業に進出いただき雇用の確保等につなげています。

このような中、浪江町に立地する福島国際研究教育機構（以下、「F-REI」）との連携や福島イノベーション・コースト構想（以下、「イノベ構想」）に基づく新たな産業を創出することを目的に、川添産業団地（仮称）を整備します。

2 産業団地の概要

(1) 対象地 川添字東師内、川添字八斗蒔 ほか

(2) 面積 約10.4ha（調査対象範囲）

(3) 主な特徴

ア F-REI整備地に隣接しているエリア

イ 浪江国際研究学園都市構想においてタウンセンター（生活関連の施設や産業化施設を整備するエリア）と位置付けられている

ウ イノベ構想などに位置付けられた産業や研究機関等の立地が見込める

(4) 想定産業

情報通信業、学術・開発研究機関、サービス業 など

3 整備財源

福島再生加速化交付金（帰還・移住等環境整備） 補助率3/4（残り1/4も国支援あり）

2 タウンセンターにおける都市整備

(3) 川添産業団地（仮称）

Ⅱ 対象地について



2 タウンセンターにおける都市整備

(3) 川添産業団地（仮称）

II 対象地について

2 川添産業団地（仮称）の整備対象について

(1) 農地について

産業団地用地として活用させていただくことを想定し、調査・検討させていただきます。

(2) 農地以外の土地（宅地・雑種地 など）について

現在の土地のご利用状況や、今後のご利用見込みなどを土地所有者様にお伺いしながら、産業団地用地に含めるかどうかなどを検討させていただきます。

3 対象地への立入り等について

令和6年8月以降、基本計画策及び測量業務の受託事業者が、対象地及びその周辺の土地に立ち入らせていただきます。立ち入る者には身分証を携帯させるとともに、対象地の地権者様には直接依頼文を送付させていただきます。

4 用地取得について

今後実施する基本計画等の進捗に合わせ、用地取得に向けて不動産鑑定や補償費算定等に着手します。用地の買取りは、個別に土地所有者様と協議させていただきます。

令和6年度中には土地所有者様へ用地の買取りに向けたご説明ができるよう、準備を進めてまいります。

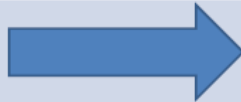
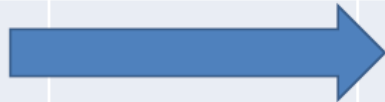
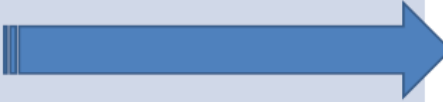
5 その他

整備対象地周辺では、F-REIの整備（国）や浪江駅周辺整備事業などが実施されており、これらの関係事業と調整・連携を図りながら産業団地の整備を検討してまいります。

2 タウンセンターにおける都市整備

(3) 川添産業団地（仮称）

Ⅲ 整備スケジュール

主な事業内容	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
適地調査				
説明会の開催		R6.8 		
基本計画策定 (開発方針検、概算事業費、事業計画検討など)				
測量調査 (地形測量など)				
不動産鑑定 補償費算定				
用地の買取り (土地所有者様へのご説明・協議・契約など)				
造成設計及び造成工事は用地取得状況等を踏まえ着手します				

※現時点での想定スケジュールのため、今後の調査検討等によって変更となる場合があります

- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要
- 2 タウンセンターにおける都市整備
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区
 - (3) 川添産業団地（仮称）
- 3 多様な主体が共生するまちづくり**
 - (1) これまでの取り組み**
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

3 多様な主体が共生するまちづくり

(1) これまでの取り組み

1) 立地推進事業（機運醸成・F-REI支援）

事業概要

福島国際研究教育機構（略称：F-REI）の活動に関する周知や外国人向け環境づくり事業等を行い、F-REI立地機運を醸成することで、住民等と共に浪江町の将来の変化をとらえた生活環境の構築を行い、F-REI研究者・関係者の町内居住を促すことを目的とする。

《主な事業》 （計画／実績）

- | | | |
|----------------------------|---------------------|----|
| ・ 町民向けセミナー（2回／1回） | ・ 事業者向けセミナー（6回／1回） | |
| ・ 研究実証フィールドツアー（2回／0回） | ・ 子供向け研究体験教室（2回／0回） | |
| ・ 町民向け英語コミュニケーション教室（6回／8回） | ・ 多文化交流会（4回／1回） | など |

事業イメージ

《セミナー》



《研究実証フィールドツアー》



出典
會澤高圧コンクリート
防災ドローン見学

《研究体験教室》



出典
R5年度F-REI開催
親子わくわく科学実験
教室

《英語コミュニケーション教室》



3 多様な主体が共生するまちづくり

(1) これまでの取り組み

2) 多言語化促進事業

事業概要

福島国際研究教育機構（略称：F-REI）の研究には外国人も関与することから、町内事業者の多言語対応や異文化に触れる機会の創出により、町内の多言語化を促進することで、住民等と共に外国人が住みやすい生活環境の構築を行い、外国人のF-REI研究者・関係者の町内居住を促すことを目的とする。

《主な事業》

- ・ R5実績 宿泊業多言語化委託事業を実施（宿泊施設向け研修、おもてなしガイドブック作成）
- ・ R6計画 小売業多言語化委託事業を実施（小売業向け研修、案内表示多言語化）

事業イメージ

《小売業多言語化委託事業》 ※道の駅なみえで事業実施中

①接客講習・演習



②施設内多言語化（表示等）



3 多様な主体が共生するまちづくり

(1) これまでの取り組み

3) 浜通り復興リビングラボ（復興庁事業）

出典：復興庁資料

背景・目的

- ・福島国際研究教育機構(F-REI)が浜通りに立地することにより、国内外から研究者やその家族が浜通りに移住・定住することが想定され、浜通りでは、従来の住民や移住者とはもとより、今後來訪する研究者のためにも生活環境を向上させていくことが期待される。
- ・F-REIにおいて、多くの実証事業が浜通り地域において実施されることとなり、地元の実証事業受入能力の更なる向上が必要。
- ⇒最新のサイエンスやテクノロジーを積極的に活用し、住宅、医療、教育、交通、買物等の生活環境に係る地域課題の解決につなげることを目指すとともに、浜通り地域における実証事業受入能力向上を支援するため、「浜通り復興リビングラボ」事業を実施する。

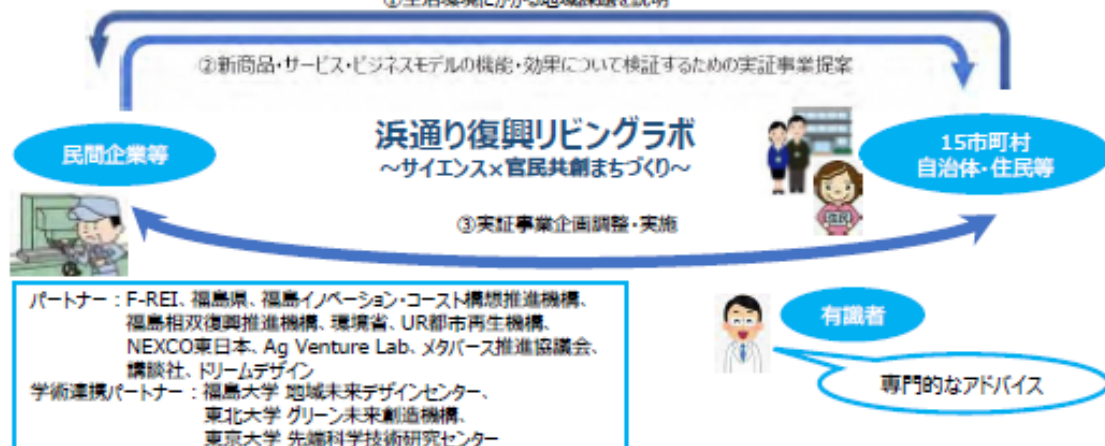
浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～

住む（住宅）、出かける（交通）、学ぶ（教育）、癒やす（医療）、楽しむ（買物・娯楽等）といった生活環境分野で、産学官の協働のもと、実証事業の企画・実施を行い、地域における生活環境向上につなげる。

①生活環境にかかる地域課題を説明

②新商品・サービス・ビジネスモデルの機能・効果について検証するための実証事業提案

③実証事業企画調整・実施



※リビングラボ：生活の場（リビング）を実験場（ラボ）としてイノベーションを実践すること。

R6年度スケジュール

4月：4/5(金)実証事業参加企業公募開始
4/16(火)公募企業向け説明会
(地域課題共有)
4/18(木)企業間意見交換会@復興庁
4/23(火)現地視察

5月：5/31(金)公募〆切

6月：マッチング会議発表企業決定
第3回シンポジウム・マッチング会議

実施プロジェクト決定・発表
実証事業企画調整
調整が整った事業から順次実施
(原則としてR7年度末まで)

3月（予定）：成果報告シンポジウム
専門家による実証事業総評

今回のシンポジウム！

参加の主なメリット(自治体)

- ・民間企業の知見や財源を活用しながら、地域課題を民間企業と共に最新技術で解決する、地元主体のまちづくりを実感できる。
- ・未来のまちの姿に向け、地域住民が新商品・サービス・ビジネスモデルを使ったより良い暮らしを一足先に体験することができる。
- ・実証から実装へ向けた展開を支援することにより、浜通りにおける地域課題の解決、ひいてはF-REI研究者受け入れ環境の向上につなげられる。

参加の主なメリット(民間企業)

- ・地域住民が生活の中で抱える課題に即して、新しい商品・サービス・ビジネスモデルの開発を行うことができる。
- ・参加者募集や関係団体等との調整など、受入自治体や復興庁、専門家の支援が得られる。
- ・「福島復興」という社会的意義のある目標に貢献できる。
- ・技術的な課題について、将来のF-REI研究との連携も視野に入る。

3 多様な主体が共生するまちづくり

(1) これまでの取り組み

出典：復興庁資料

令和5年度提案事業のマッチング結果



社名	実証事業概要	実施自治体
1 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 株式会社NTT-ME NTTインフラネット株式会社	3D都市モデルのまちづくりへの活用方策の検証 (富岡町)「夜の森地区」において3D都市モデルを用いたデータ基盤例を構築し、桜まつりの事前検討への活用を検討する。また、夜の森地区の復興まちづくりに寄与する活用の在り方を検証する。 (浪江町) F-REI門前町としてまちづくりを検討している地区において、3D都市モデルを用いたデータ基盤例を構築し、データ取得や管理方法などまちづくりに寄与する活用の在り方を検証する。	富岡町 浪江町
2 株式会社URシステムズ	ChatGPTを活用した市民サービスの向上 (空き家等照会対応サービスを事例として) 最先端のAI技術であるChatGPTを用いて、移住者による住宅についての問い合わせ対応の省力化を図るだけでなく、質問やその応答の分析を行うことで、市民サービス向上におけるChatGPTの有用性を検証する。	南相馬市
3 株式会社ウェザーニューズ	災害被害情報収集システムの日常活用による安全・安心なまちづくり支援 LINEチャットボット機能を利用し、災害時に住民からの被害状況を収集し防災／避難活動を支援するシステムを日常から住民に活用して頂くなど、平常時から地域の安心安全に繋がる情報プラットフォームの構築について検証する。	浪江町
4 株式会社DeNA	防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、3Dアートワークショップの実施 先端技術に触れる授業、ワークショップを通じて、子どもたちに3Dアート作品を作ってもらい、避難場所等に配置・閲覧することによって、将来的に防災に役立つツールとして利用することができるのかを検証する。	いわき市
5 株式会社ゼンリン	ドライブレコーダー画像を活用した道路変化点(道路修繕必要箇所)の検知 タクシー、公用車等で取得したドライブレコーダー画像とゼンリンの保有する地図情報を活用することで、道路の変化点を効率的に検知し、道路メンテナンス業務量を削減する仕組みを検証する。	大熊町 双葉町 浪江町
6 株式会社フジタ 株式会社ふたば	ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上 現在人力で行われている山林管理における測量作業や樹種等把握の効率化を図ることを目的として、ドローンを活用した緑地管理手法が適用できるか実証する。	南相馬市 飯館村 浪江町

※R6.9.30時点版。

3 多様な主体が共生するまちづくり

(1) これまでの取り組み

出典：復興庁資料

令和6年度提案事業のマッチング結果（R6.9.30時点）



	社名	実証事業名	実施自治体
1	大日本印刷株式会社	行政窓口のユニバーサル対応・外国人対応（対話支援事業） リアルタイムに文字に変換・翻訳し、直感的に理解しやすい文字で表示する対話支援システムを用いて、高齢者や音声を取り取ることが困難な人、外国人との対話を容易にし、行政窓口の業務効率化と多様性社会への対応について検証する。	檜葉町 富岡町 浪江町
2	大日本印刷株式会社	ドローンを活用した獣害対策事業 ドローンや赤外線カメラを活用し、害獣モニタリング・生息域調査と、より効率的な獣害対策の方法や効果の検証を行う。	相馬市 浪江町
3	大日本印刷株式会社	服薬サービス事業（ドローンによる調剤配達、リモート服薬管理サポート） ドローンによる医薬品の配達や、高齢者世帯等へのリモート服薬サポートシステムの検証を行う。	南相馬市
4	株式会社ウェザーニューズ	極端気象下での気象情報活用による安心・安全な街づくり支援 極端化する気象現象を踏まえ、これまで気象情報を活用してこなかった自治体業務における、ウェザーニューズが保有するシステムの活用余地及びその効果（防災対応能力の向上や業務効率化）を検証する。	浪江町
5	株式会社キャドセンター	3D都市データを使ったデジタルツイン構築 3D都市データを活用し、双葉町を舞台にしたコンテンツを制作することで、多くの方へ町への興味関心を喚起し、町への帰還、来訪につながるかを検証する。	双葉町
6	首都高速道路株式会社 首都高技術株式会社 セーフィー株式会社	道路パトロールシステムを活用したインフラ管理支援 首都高速道路のリアルタイム遠隔管理パトロールシステムを活用し、市内の道路巡回点検業務等の高度化、効率化について検証する。	いわき市
7	株式会社NTTデータ 経営研究所	自治体職員のまちづくりマネジメント力向上研修プログラム開発 自分たちが実現したい政策・施策づくりを行うための自治体マネジメントの方法論を構築することを目的とした実証事業。トライアルとしていわき市の仮の政策目標として「市民の幸福度最大化」を掲げ、それに向けた施策を立案し、実行のための庁内合意形成プロセスを構築してみる。	いわき市
8	株式会社フェイス	カーボנקレジットを活用した脱炭素型・高収益稲作体系の検証と普及 水田の中干し延長によるJクレジットの取組を町内で推進することが農家の収益向上、担い手不足対策に効果的なのか検証する。また、水位センサーを設置し、記録を自動化することによるJクレジット取得の簡易生成モデルも併せて開発し、検証する。	広野町 浪江町
9	株式会社Agnavi	日本酒一合缶を通じた新しい飲酒スタイルの醸成と地域産品の発信 浜通りの日本酒の一合缶商品を企画・開発して販売を実施し、缶という新たな飲酒スタイルを醸成することで浜通り地域の日本酒の魅力発信や販路の拡大を可能にするか検証する。	いわき市 川内村 浪江町

※内容等は変更の可能性あり。

- 1 浪江国際研究学園都市構想の概要
- 2 タウンセンターにおける都市整備
 - (1) 全体概要
 - (2) 浪江駅西側地区
 - (3) 川添産業団地（仮称）
- 3 多様な主体が共生するまちづくり
 - (1) これまでの取り組み
 - (2) 共創プラットフォーム形成に向けて

3 多様な主体が共生するまちづくり

(2) 共創プラットフォーム形成に向けて

共創ってなに？

R5.12.4開催の職員勉強会における講師資料を基礎として作成しています。

定義：協働は協力・役割分担し取り組む「状態」を表すもの。

共創は協力しながら新たな価値を創造する「結果」に重点が置かれたもの。

《共創（Co-creation）とは…》

企業等があらゆる利害関係者（ステークスホルダー）と対話や協働しながら事業の企画、運営、評価を行い、新しい価値を創造すること。

⇒常に多様化・変化する社会や市民の価値観を把握し、多角的な視点で事業の企画、運営、評価を行う一つの手法です。近年は様々なステークスホルダーと「共通善」を探し、作っていくことが求められる時代といわれています。この手法によって、より持続的かつニーズに合った価値を社会に提供することが可能となります。

技術などのシーズ
F-REI研究などの「知」

主な主体：企業・大学など

《オープンイノベーション》
異業種・異分野と連携した
イノベーションの方法

学学連携 パンチャー連携
産学連携 地域連携
社会連携 公民連携
企業連携 など

【当面の市街地整備課の取組】

- ・交流・連携が図れるようなプラットフォームづくり
- ・コミュニティマネージャーのような人材育成・発掘

《共創プラットフォーム》
利害関係者による対話等を
図るための場の創出

技術などの提供

対話・交流など

ニーズ・検証の場の提供

【当面の市街地整備課の取組】

- ・プラットフォームの構築方策検討
- ・マネジメントやコーディネート体制の構築のための人材育成・発掘

新たな価値観からの潜在ニーズ
生活課題（市場）の解決ニーズ

主な主体：住民・地方自治体など

《リビングラボ》
住民が主体となって暮らしを豊かにするモノ・サービスを生み出したりよりよくしていく活動

企業などとの連携や事業検証
コミュニティビジネスの創出

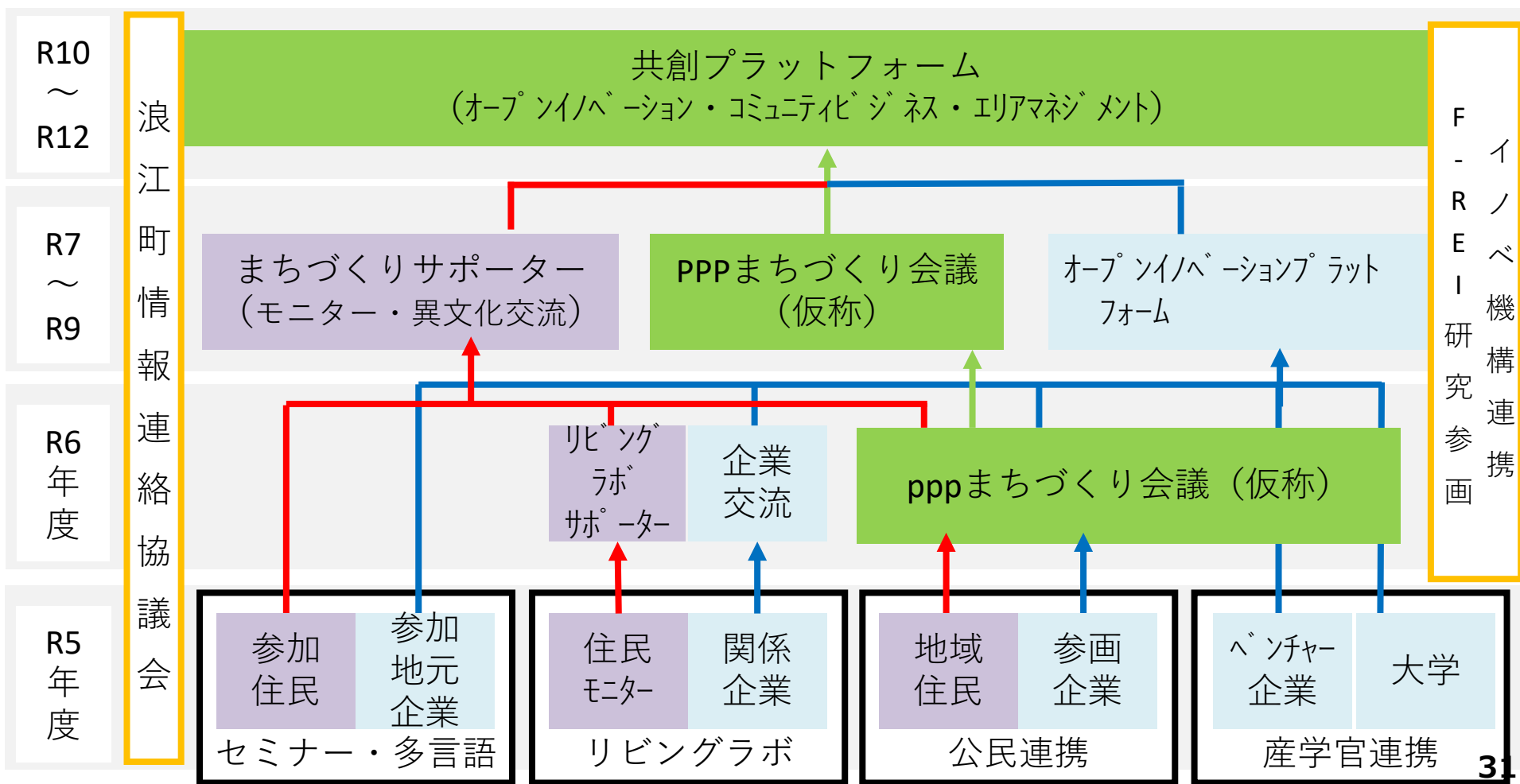
- 【当面の市街地整備課の取組】
- ・意見交換などが図れるようなプラットフォームづくり
 - ・モニター参加などの住民サポーターづくり
 - ・実証フィールドの確保

地域課題の解決と成果の産業化・地域マネジメント力の向上とビジネス化

3 多様な主体が共生するまちづくり

(2) 共創プラットフォーム形成に向けて

- ◆ 各機関・団体等がそれぞれの目的、必要に応じて共創プラットフォームを形成
- ◆ 浪江町は、プラットフォーム相互の有機的で緩やかな連携を図る（プラットフォームを束ねる統括的プラットフォーム形成は目指さない）
- ◆ 浪江町は、地域課題解決、地域産業・地場産業振興、まちづくりを主要対象分野として重点的に取組む



3 多様な主体が共生するまちづくり

(2) 共創プラットフォーム形成に向けて

中長期的なイメージ

まちづくりサポーター

リビングラボサポーター

異文化交流サポーター

その他の住民活動

エリアマネジメント

コミュニティビジネス

公共施設管理

その他の地域管理

オープンイノベーションプラットフォーム

リビングラボ

スタートアップ支援

産学官連携



【長期目標】
共創プラットフォームの構築

町内で活動する住民・企業・大学などの様々な主体が相互に交流できるプラットフォームづくり
※本来の活動を阻害しない緩い有機的なつながりを想定

3 多様な主体が共生するまちづくり

(2) 共創プラットフォーム形成に向けて

1) 共創プラットフォーム形成の推進

① 事業者、住民セミナー等

⇒ 地域の価値向上に資する好循環・連鎖を生み出すことを目指し、事業者や住民を対象としたセミナー等を開催し機運を醸成し、浪江町において共創プラットフォームを形成。

② 公民連携事業

⇒ タウンセンター（特に、浪江駅西側～F-REIまでの間）における公民協働まちづくりの具体化に向けて、公民連携まちづくり（PPP/PFI含む）の機運醸成のためのセミナーや、整備・運営手法への提案を募集する民間事業者サウンディング実施。

2) 学園都市ブランド形成（町まるごとキャンパス化）

- 浪江町には大学も高校もなく、F-REIだけで「学園都市」と言えるのか？という課題意識から、町内に幅広く「学びの場」を普及し浪江町がまるごとキャンパスとなることで、浪江町の「学園都市ブランド」形成を目指す。
- その第一歩として、住民やコミュニティ相互の交流のきっかけづくりを行う「**住民活動サポート事業**」を実施し、今後の学園都市の在り方を検討。

3 多様な主体が共生するまちづくり

(2) 共創プラットフォーム形成に向けて

セミナー、提案募集、民間事業者サウンディングスケジュール

年度	目的	7/7	7/31	10/3	11/5	1月	備考
R6	町内事業者 町民、就業者等	公民連携セミナー① 地域課題の提示	アイデア提案募集説明会	PPP/PFI協会フォーラム 公民連携事業の具体的なイメージ形成	公民連携セミナー② 民間事業者アイデア発表会	公民連携セミナー③ まちづくりWS ワーキング、コンサート	※QUINT BRIDGE @大阪市 7/24スマートシティ&まちづくり 関連イベントで発表
	町外事業者						

年度	目的	4～6月	7～9月	11～12月	1～3月	備考
R7	事業者選定	事業者募集要項に係るサウンディング	公民連携セミナー④ 事業者選定公募説明会	公民連携セミナー⑤ 応募事業者提案発表会	公民連携セミナー⑥ 決定事業者プレゼン	浪江駅周辺整備事業で検討中のエリマネ組織と連携
	プラットフォーム形成	パートナー探し	体制検討	(仮称)タウンセンター協議会発足	エリアマネジメント活動	

※進捗状況に応じて随時見直します

3 多様な主体が共生するまちづくり

(2) 共創プラットフォーム形成に向けて

第2回

公民連携 セミナー

浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案発表会

MODERATOR



株式会社 新産業文化創出研究所 代表取締役所長
廣常 啓一氏

立命館大学卒業。2005年に新産業文化創出研究所を設立し、新たな産業や文化の創出機能や拠点づくり、またその機能や新たな産業（技術）、文化を活用した「まちづくり」の仕掛けをオープンイノベーション型で進める。

現在、帝塚山学院大学特任教授や大阪市立大学客員講師、URまちづくり支援専門委員なども務める。

日時

11/5 火 13時～（開場／12時30分）

場所

秋桜アリーナ会議室（浪江町地域スポーツセンター）
浪江町大字権現堂字下馬洗田5-2

※当日はzoomによるオンライン参加も可能です（要申込）

定員

50名（要申込）

当日参加

できなかった

方も

発表会動画合同視聴会を開催

日時：11/9（土）13時～

会場：浪江町役場本庁舎2階大会議室
浪江町大字幾世橋字六反田7-2

申込：申込用フォームまたは電話で受付



3 多様な主体が共生するまちづくり

(3) 共創プラットフォーム形成に向けて

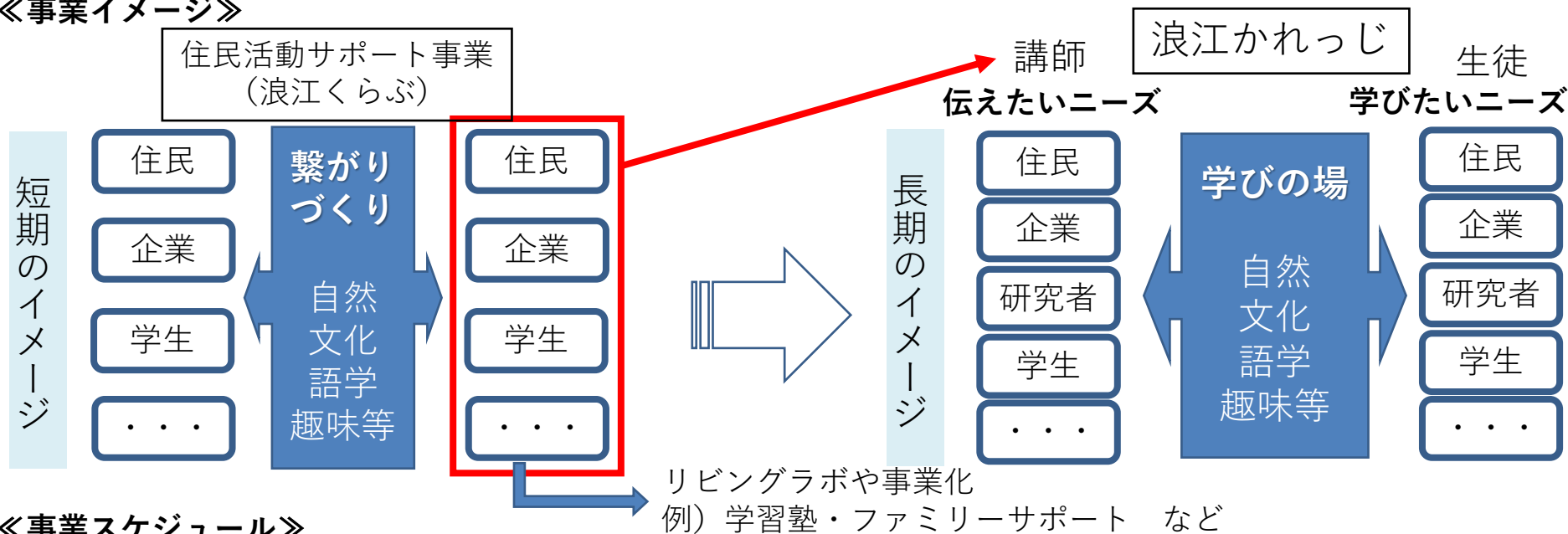
住民活動サポート事業

《目的》

短期：住民・団体等がつながる場を創出し、交流のきっかけづくりを行う。学びたいニーズと伝えたいニーズを把握し、ニーズに応じて住民活動を支援し交流を促進。ここでの住民活動支援の取組を通じて「学びの場」の在り方を検討。

長期：町内に幅広く「学びの場」を普及し「町全体がキャンパス」となり、浪江町の「学園都市」ブランドを形成。
地域コミュニティの活性化に加え、共創プラットフォームと連動させ 新事業創出や地域の創造的復興を実現。

《事業イメージ》



《事業スケジュール》

	7/17	9/29	10	11・12	1・2	3
令和6年度	準備会	町民交流会	交流会開催			成果報告会

住民や町内活動中のNPO等から意見を聞き、学びたいニーズ、伝えたいニーズを把握

企画財政課移住定住係、まちづくりなみえと連携、移住者交流会拡充開催

9/29町民交流会の結果を踏まえて内容、時期、頻度等検討

将来的には認証等に関する簡易なルール・仕組みや運営方針などを策定

3 多様な主体が共生するまちづくり



移住された方との交流会

～みんなで語り合い、まちづくりに参加しよう～

移住された方、町にお住まいの方との交流の機会に参加してみませんか。
浪江町内の出来事や生活など、どんなことでも構いません。食事をとりながら語り合いましょう。

皆様のご参加をお待ちしております。ぜひお越しください！

日時：令和6年9月29日（日）10:30～12:30
場所：道の駅なみえ 大会議室
対象者：浪江町に移住された方
浪江町にお住まいの方
浪江町の事務所に勤務されている方
参加費：無料（昼食にはお弁当をご用意します）

申込・問合せ先

【一般社団法人まちづくりなみえ】
〒979-1513 浪江町幾世橋字大添52-1
(9:00～18:00営業 水・日・祝休)
TEL：0240-23-7530

申込み方法：申込先に電話、もしくは下記申込用紙を提出
申込期限：令和6年9月20日（金）